

# 特別支援学校の教員による 子どもの行動への「ポジティブな評価」の促進

—行動コンサルテーションを通して—

○土田菜穂・中鹿直樹

(立命館大学 総合心理学部)

KEY WORDS: 行動コンサルテーション, コンサルティ, ポジティブな評価

## (問題と目的)

行動コンサルテーションとは、クライアント(たとえば、学校現場では児童生徒)の行動上の問題に対して、コンサルティ(教員や保護者)とコンサルタントが行動論的なアプローチで問題解決にあたるコンサルテーションである(Bergan & Kratochwill, 1990; 加藤・大石, 2004)。その特徴の1つとして、対象生徒の行動上の問題解決のみならず、教員の支援行動の変容にも重点が置かれる点が挙げられる(加藤・大石, 2011)。本研究は、教員の対象生徒に対する行動の捉え方に着目する。学校現場では、対象生徒の行動上の問題解決を目的とした介入を実行する場合、対象生徒の問題行動に注目する傾向にある。しかし、対象生徒の行動的 QOL の拡大(望月, 2001)を実現するためには、教員が対象生徒の「できること」に目を向けて拡大していくという視点を持つことが重要である。

本研究の目的は、行動コンサルテーションの手続きにおいて、教員が対象生徒の「ポジティブな評価」を報告する時間を設定することによって、教員の対象生徒に対する行動の捉え方がどのように変容するか検証することであった。

## (方法)

**参加者:** 対象生徒は、特別支援学校に在籍する高等部3年のダウン症の男子生徒であった。担任より気になる行動として、声の大きさが調整できず、不適切な場面で大きな声で話すことが挙げられた。コンサルティとなった教員は、対象生徒の担任で、教職歴20年以上の40代の女性であった。コンサルタントは、第一筆者が担当した。なお、対象校の管理職と担任および保護者に対して、インフォームド・コンセントを実施して、研究協力の承諾を得た。

**標的行動:** 声の大きさを調整して話をする

**従属変数:** 担任からの報告で「前回の話し合いからできるようになったこと」「良い面だと気づいたこと」として挙げられた内容を「ポジティブな評価」を定義して、その報告数と報告の内容を従属変数として測定した。

**設定:** ①問題の同定・②問題の分析・③介入の実行・④介入の評価の4段階の順に実施した。コンサルタントは、月に1回対象校に訪問して、介入場面の観察と担任との1時間程度の話し合いを実施した。話し合いは、計6回実施した。第1回の話し合いの内容は、標的行動の選定と情報収集の内容の決定であった。第2回は、情報収集をもとにしたアセスメント結果から介入計画を立案することであった。第3回と第4回は、介入実行段階であり、担任が観察記録の結果をもとに介入の効果を確認して、必要な場合は修正案を検討した。第5回と第6回は、フォローアップ期であった。

**手続き:** 話し合いにおいて、前半に介入に関する検討を実施した後に、後半に担任が口頭で対象生徒の「ポジティブな評価」を報告する時間を設定した。コンサルタントは、報告の聞き手となり、「ポジティブな評価」の報告に対しては言語賞賛した。また、話し合いの議事録を作成して、「ポジティブな評価」の内容を確認できる機会を提供した。

## (結果と考察)

担任による対象生徒の「ポジティブな評価」の報告の累積数と報告内容を図1に示した。第6回までの話し合いを通して、報告は増加傾向を示した。特に、第2回の情報収集後の話し合いと、第5回と第6回の介入2以降に実施された話し合いで報告数の増加率が上昇した。報告数が増加した要因として、第2回の話し合いでは、情報収集期間を通して、対象生徒の声の大きさに注目する機会が増えたこと、報告に対してコンサルタントによる言語賞賛を得られたことが挙げられる。さらに、介入2以降、標的行動の改善が確認できたことで、対象生徒の「できること」に目を向ける行動が強化され、それに関連する行動についても「ポジティブな評価」として捉えて報告することが可能になったと考えられる。

報告内容は、標的行動である声の大きさの調整に関する事柄からコミュニケーション全般に関する事柄に拡大した。具体的には、担任との会話の中で話を注意深く聞く様子が見られた、担任からの指示に対する返事の種類が増えたなどであった。

行動コンサルテーションにおいて、教員が対象生徒の「ポジティブな評価」を報告する時間を設定することで、教員の対象生徒に対する「できること」を見つける行動が促進され、対象生徒の「できること」の拡大にもつながることが示唆された。

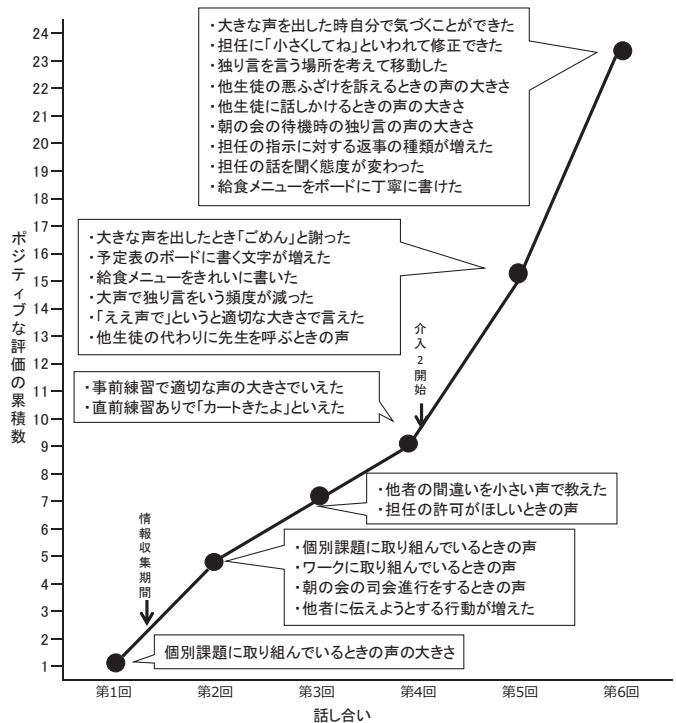


図1 担任による対象生徒に対するポジティブな評価の累積数

※累積数に加えて、吹き出しに各話し合いで報告を受けたポジティブな評価の内容を提示した。

(TSUCHIDA Naho, NAKASHIKA Naoki)